

生産性向上実現プロジェクト（PJ）四年目も続けて開催

【愛知森林管理所】

2月4日に、生産性向上実現PJ、A会議を愛知森林管理事務所において開催しました。会議にはP会議以降出席いただいた県、市町村、林業事業体など約36名が参加しました。

このA会議は、事業終了後の実行結果集約、日報の最終分析等を行い、改善内容の検討を行うことで作業システム等を検討して生産性向上を図っていくことを目的としています。

今年度から、実行事業体以外の林業事業体もP会議から参加していることが特記すべき取り組みです。参加事業体は、このプロジェクトに感化され、自社が実行する事業でP(計画)・D(実行)・C(評価)・A(改善)を回す工夫がされるようになりました。



生産性向上PJ、A会議の様子

今年度、生産性向上実現PJ四年目を迎える新城森林組合は、同一班での事業実行で定性・列状間伐の両作業があったにも関わらず、昨年度を大きく上回る10.34m<sup>3</sup>/人・日(平成29年8.18m<sup>3</sup>/人・日、列状間伐のみ)の生産性を達成しました。

A会議内での質疑では事業体、県等から活発な意見が出され、その他にも国土防災技術(株)より「ドローンによる単木抽出と精度検証」の報告など産官学が有意義な意見交換を行いました。今年で四年目を迎える本PJですが、国有林のフィールドを活用し、民有林へ技術の伝道を進め循環型林業へ資する取組を進めていきたいと考えています。

林野庁「国有林間伐・再造林推進コンクール」で最優秀賞を受賞の開催

【資源活用課】

林野庁において毎年実施されている「国有林間伐・再造林推進コンクール」の搬出間伐部門において、中部局から推薦した有限会社金山林業が「林野庁長官最優秀賞」を受賞し、1月24日、林野庁において行われた表彰式において牧元長官から表彰状が授与されました。

金山林業は、昨年度の、生産性向上実現プログラムの取組において「中部森林管理局長最優秀賞」を受賞しており、今回、高い生産性と間伐の推進に寄与することが大きいと認められたものです。

なお、中部森林管理局管内の事業体が、このコンクールで最優秀賞を受賞するのは16年ぶりとなります。

金山林業の取組については、1月29・30日に行われた「中部森林技術交流発表会」の特別発表として、同社の石井良典さんから「生産(材)の流れを止めない作業仕組みによる生産性の向上」と題して発表いただきました。

発表を前に、同社金山取締役が石井さんとともに宮澤局長を訪れ、長官賞受賞の報告、受賞の感想や今後に向けての意気込みなどを話されました。



現場作業の様子